

マミヤスレス

の使い方

は じ め に

このカメラに、特別の興味を、お寄せ下さいまして誠にありがとうございます。わが国は、世界有数のカメラ生産国でありながら、大型カメラだけは、主として、これを外国製品に頼って参りました。そのため入手難、経費のかさみ、アフター・サービスの不利など、あらゆる不便に甘んじなければなりません。しかも大型カメラの必要性は、近時ますます増加し、マスコミの領域や商業写真用は、もちろん、官庁、学校、病院、研究所、会社、工場などにおける各種の用途に、今や、まったく欠くことのできないものとなっております。

本 機 の 構 想

当社が、このカメラの設計に当って、目標としたところは、大型でありながら、次の三点を満足することでありました。

1. できるだけ広範囲に使い得ること。
2. 小型カメラの長所とする携帯性を持たせること。

3. 堅ろうな構造で、しかも外国品より、相当安価にすること。

この三条件を満たすため、種々検討の結果、このカメラの基本的構造を、次のように決定いたしました。

A. ボデー及び前板は、耐蝕性のアルミニウム合金鋳物（シルミン・ダイキャスト）として、十分な剛性を与えたこと。

B. レンズは、標準（90ミリ、F3.5）、長焦点（150ミリ、F5.6）、広角（65ミリ、F6.3）の三種が、カムなどの、やっかいな仲介物の交換を必要としないで、きわめて簡単に距離計と連動すること。

C. レンズの繰り出しには、精度に信頼がおけて、耐久性のある直進ヘリコイド方式を採用したこと。

D. カメラ前方のアオリは、工作面とカメラの機動性に、かんがみて、これを省略し、その代わりに後部のアオリの範囲を広げて、アオリ効果を充実し、かつ近接撮影にも効果を、あげるようにしたこと。

E. 市販の感光材料は、入手状況、価格の、いずれの点からもローニー・フィルムが強いので、その使用を前提として、画面サイズを決定。乾板、カット・フィルム、パックは、いずれも全金属製のホルダーを用意。特にロール・フィルム用のホルダーは、フィルム平面性の保持と円滑な操作性に重点をおき、全金属製の6×9判の8枚どりのほか、6×7判の10枚どりのホルダーも準備し、巻止はスタート・マーク合わせの自動巻止方式としたこと。また6×9判及び6×7判の、いずれのホルダーも、6×6判及び6×4.5判の撮影が、画面部への画面わくの装着とファインダーへの補助マスクの使用によって、可能となること（ただし巻取りは裏窓式）。

F. 操作性に、習慣性を尊重するも、カメラの重量を考慮して、多少の工夫を加えたこと。すなわちカメラ保持は左手として、グリップを握ること。シャッターは、左手人さし指で、グリップに取り付けられたケーブル・リリースの押しボタンを押して切ること。焦点調節は、右手で行なうなど。もちろん、これには

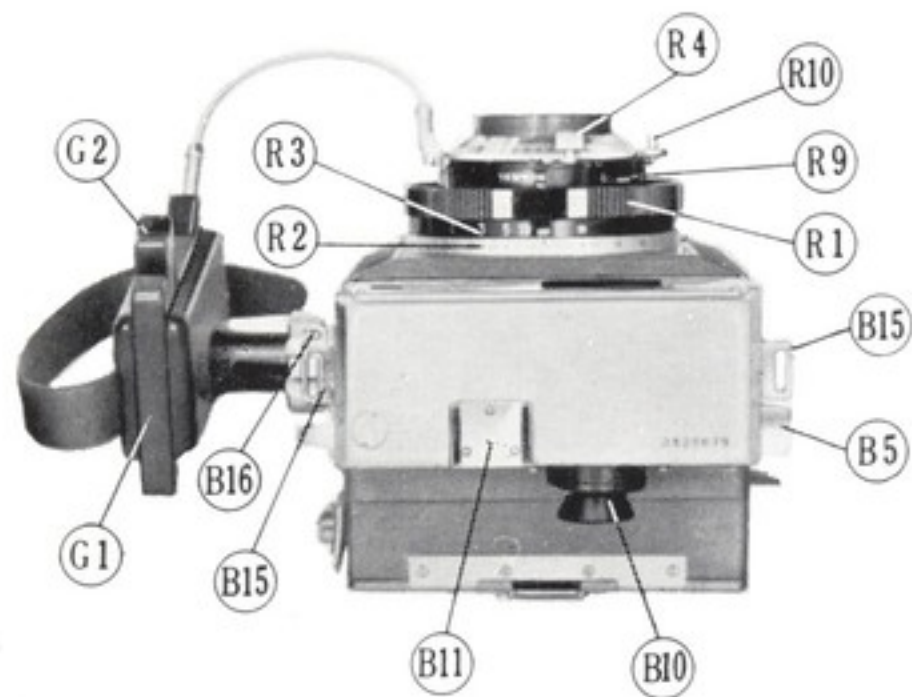
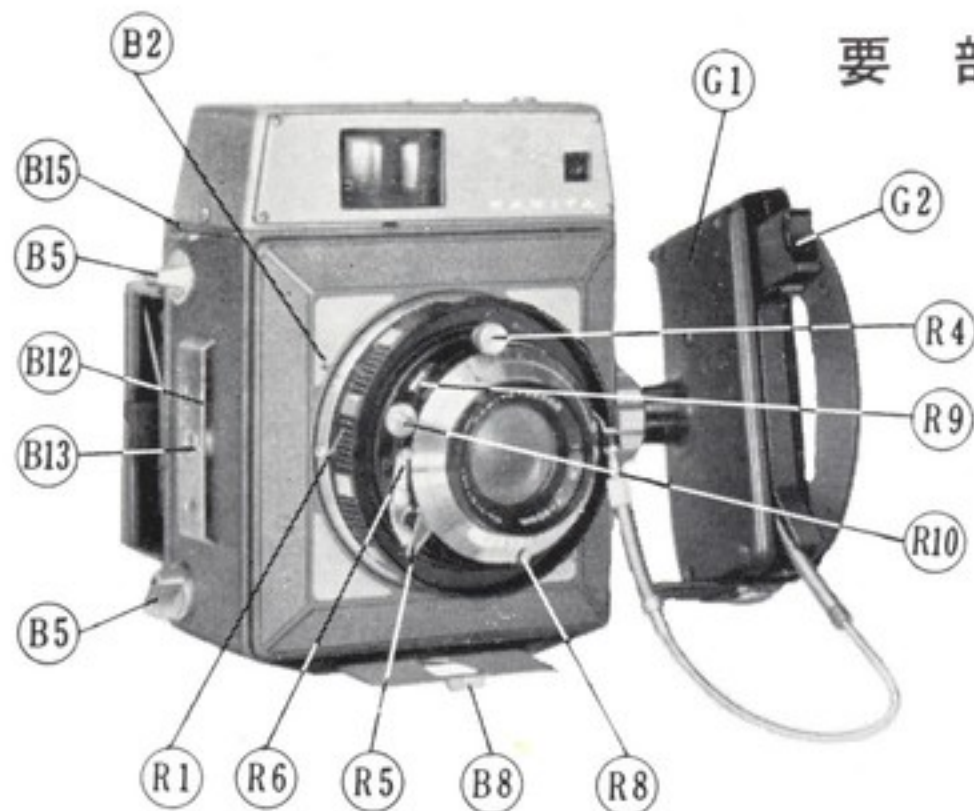
幅があり、右手で直接シャッターを切ることも可能。また取りわく類の片手操作を楽にするため、ピント・ガラス部に工夫を施したこと。

G. 標準レンズの場合、遠方の被写体を写す際にアオリを使うと、レンズが前方に出たことになって、焦点が合わせられないので、この欠点を、できるだけ防ぐために、レンズを通常状態より10ミリ沈胴させることができるように設計。そこで沈胴しているために起る不用意の失敗を防ぐため、ファインダーの視野が沈胴の際はシマ模様でおおわれる警告装置をつけた。

なおカメラの名称はマミヤ・プレスであります。広範囲な利用ができますように、相当苦心を払いましたので、必ずしもプレス用としては徹し切ってはいないかもしれません。しかし以上の諸性能を御賢察下さいまして、十分にご使用いただき、あなた様のお仕事に多少でも、お役に立たせていただければ、当社の喜びこれにすぐるものは、ございません。

要部の名称

レンズ・シャッター部 (R)

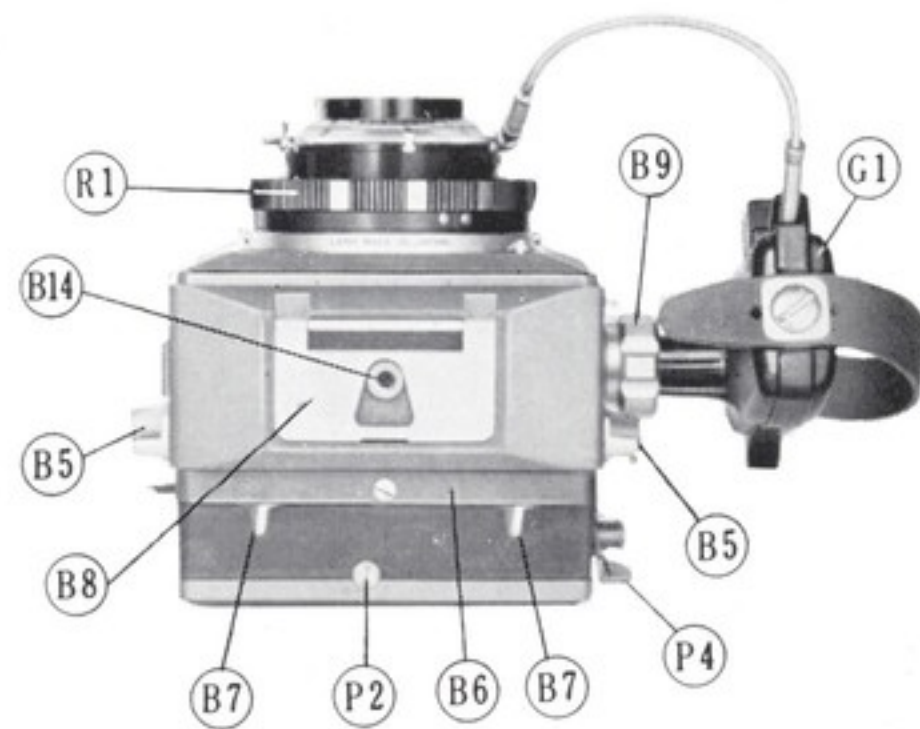
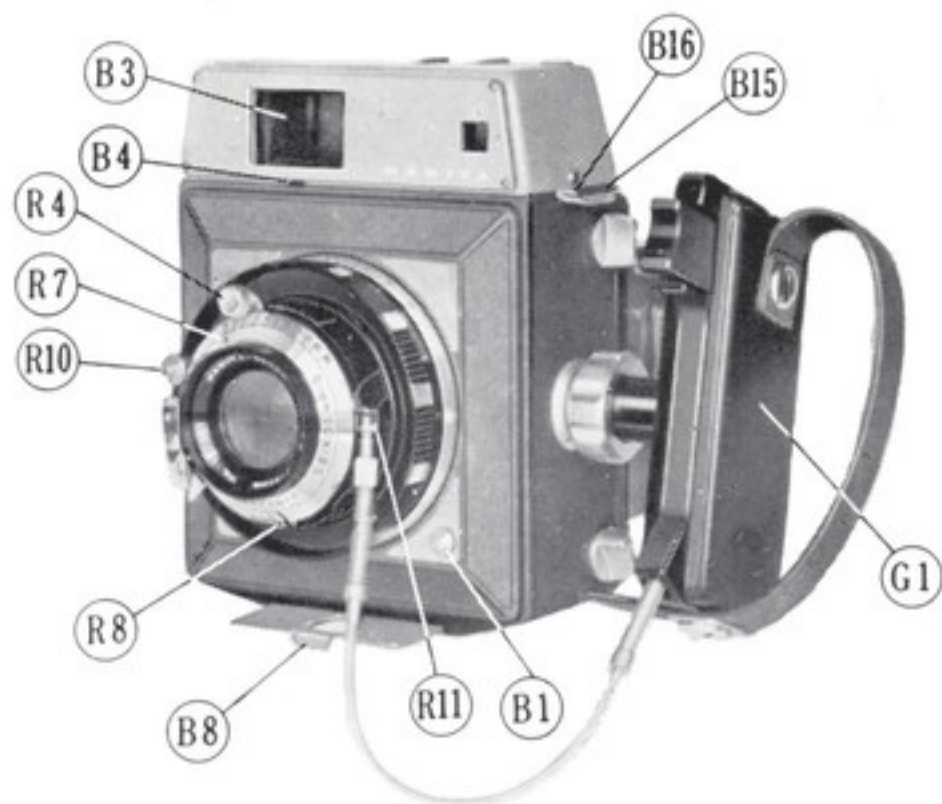


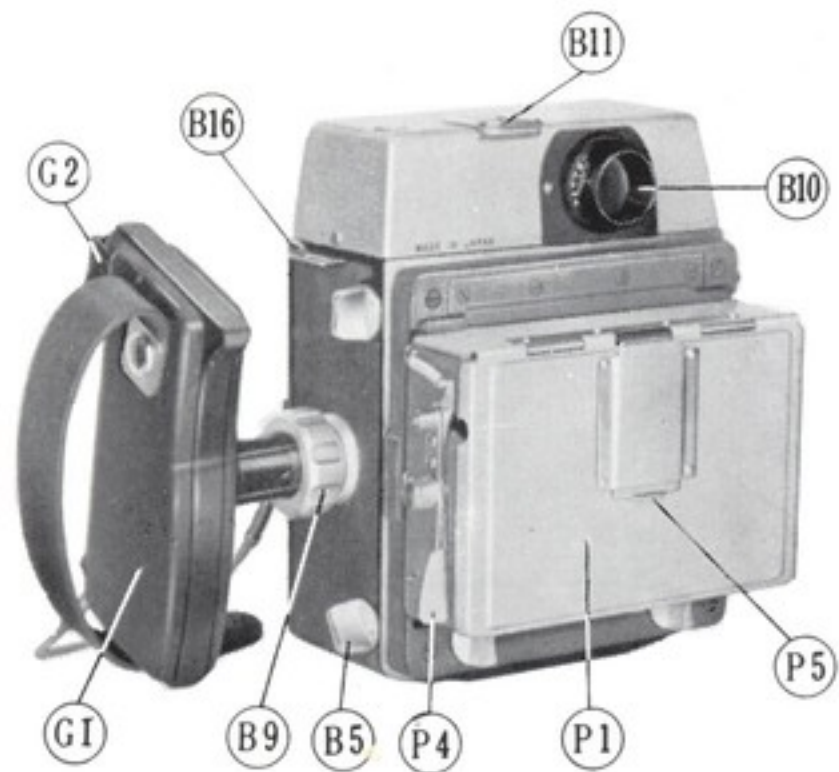
- R 1 焦点調節リング
- R 2 被写界深度目もり環
- R 3 距離目もり
- R 4 シャッター・セット・レバー
- R 5 シャッター・リリース・レバー
- R 6 タイム・レバー
- R 7 露出時間目もりダイヤル
- R 8 絞り調節レバー
- R 9 MX切替えレバー
- R 10 シンクロ・ターミナル
- R 11 ケーブル・リリースさし込み口

注意 標準レンズを使用するときは、まずレンズを引き出して下さい。沈胴させる必要は、遠方の被写体にアオリをかけるときです。

カメラ本体 (B)

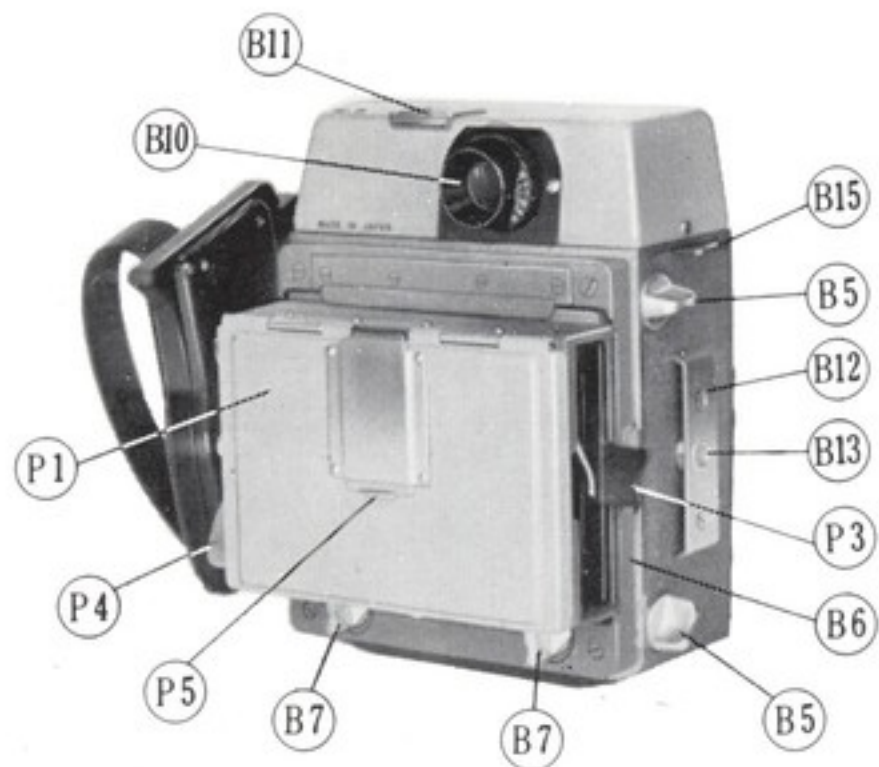
- B 1 レンズ・ロック・ボタン
- B 2 レンズ着脱標識点
- B 3 ファインダー窓
- B 4 ファインダー変更レバー (長焦点用)
- B 5 アオリ板ロック・ノブ (左右4個)
- B 6 アオリ板
- B 7 ピント・ガラス・ホルダー
ロック・ノブ (左右2個)
- B 8 安定板
- B 9 グリップ・ロック・リング
- B10 ファインダーのぞき窓
- B11 付属品取付け座
- B12 発光器取付け座
- B13 三脚用ねじ穴
- B14 三脚用ねじ穴
- B15 カメラつり金具 (左右)
- B16 レリーズ受け口





グリップ (G)

- G 1 グリップ
- G 2 ケーブル・リリース押しボタン



ピント・ガラス・ホルダー (P)

- P 1 うしろぶた
- P 2 うしろぶた止めボタン
- P 3 ピント・ガラス取っ手
- P 4 ピント・ガラス開除レバー
- P 5 うしろぶた開閉角度調節金具

要部の機能と操作法

画面サイズ

公称 6×9 判

実画面寸法

A) 乾板 (J (2½" × 3½")) 57 × 84 ミリ

B) カット・フィルム (カビネの ¼)
57 × 78 ミリ

C) フィルム・バック (J 520)
最小 55 × 80 ミリ

D) 6 × 9 判用ロール・フィルム・ホルダー
(J 120)

イ) 6 × 9 56 × 84 ミリ

ロ) 6 × 6 56 × 56 ミリ

ハ) 6 × 4.5 56 × 42 ミリ

E) 6 × 7 判用ロール・フィルム・ホルダー
(J 120)

イ) 6 × 7 56 × 67 ミリ

ロ) 6 × 6 56 × 56 ミリ

ハ) 6 × 4.5 56 × 42 ミリ

使用感光材料とホルダー類

A) 乾板

J (2½" × 3½") を乾板用取りわく (一枚どり、次頁写真上) に入れて、これをピント・ガラス・ホルダーの側面から装入して使用します。

B) カット・フィルム

JS (4¾" × 6½") を ¼ に切断して、フィルム受けにはさみ、これを乾板用取りわくに入れて、上記と同様にして使用します。

カビネ判のカット・フィルムを ¼ に切断するカッターは、当社で発売中。

大名刺判のカット・フィルムが手に入るときは、フ



フィルムの上ろに、不用の乾板などを、あてがって使用して下さい。

C) フィルム・パック

J520 をフィルム・パック・ホルダー（写真中）に入れて、前記と同様に、ピント・ガラス・ホルダーの側面から、カメラに装入します。

D) ロール・フィルム

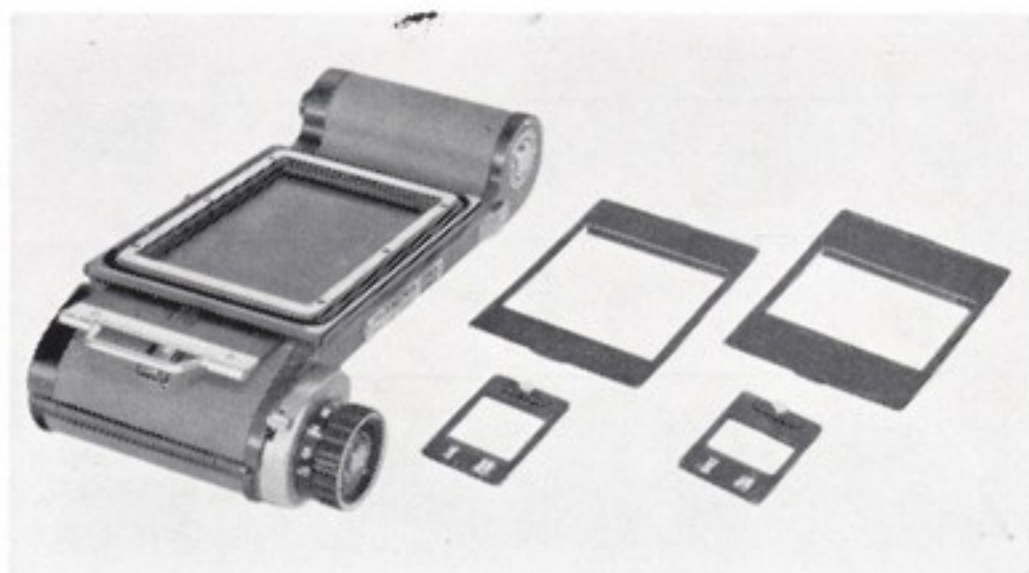
J120 をロール・フィルム・ホルダー（写真下）に入れ、カメラからピント・ガラス・ホルダーを、はずして、その代りに、ロール・フィルム・ホルダーをカメラに装着します。

画面サイズの変更

ロール・フィルムを使用して、6×6判または6×4.5判を撮影する必要があるときは、ロール・フィルム・ホルダーの画面部に、それぞれの画面わくを、はめこんでから、使用いたします。6×6判及び6×4.5判のフィルム番号は、ホルダー裏面の赤窓を使用します。

同時に、ホルダーまたは長焦点レンズに付属している補助マスクを上部カバーのファインダー窓(B3)に装着し、視野を修正します。ただし広角レンズの場合

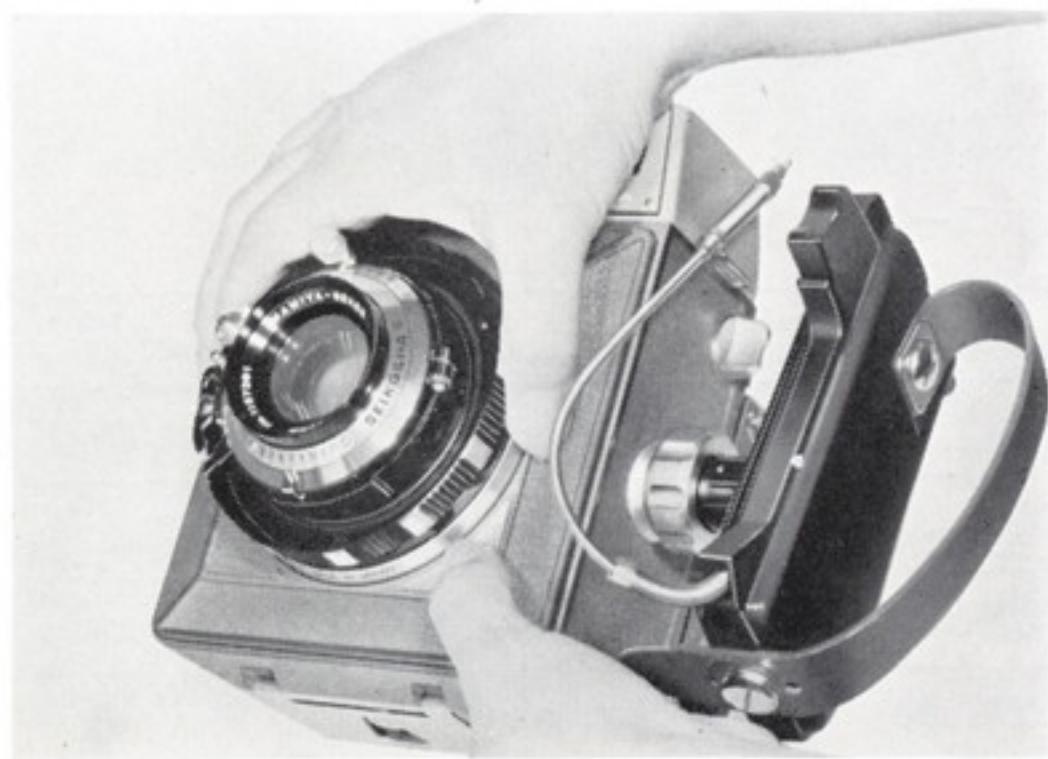
には、付属の専用ファインダーを付属品取り付け座(B11)に、さし込み、その視野わくを見て区別します。



レンズ (マミヤ・セコール)

要目 種類	明るさ	焦点距離 (ミリ)	構成	写 角			
				6×9判	6×7判	6×6判	6×4.5判
標準	3.5	90	3群4枚	58° 30'	51° 50'	50°	42°
長焦点	5.6	150	3群4枚	37° 30'	32° 30'	32°	26°
広角	6.3	65	4群4枚	75° 40'	67° 50'	63°	56° 10'

種類	要目	フィルターねじ		備考
		ϕ (ミリ)	P (ミリ)	
標準	標準	40.5	0.5	専用レンズ・フードあり
長焦点	長焦点	40.5	0.5	後部レンズ・キャップ及び専用レンズ・フード付属。
広角	広角	43	0.75	専用ファインダー及び後部レンズ・キャップ付属。鏡胴がフードを兼ねる。



注 1. レンズは、いずれもフル・コーテッド。

注 2. 専用レンズ・フードは、不使用時は、逆に、かぶせて携帯の便を計れる。

レンズのマウントと着脱

特殊バヨネットにより、ボデー前板に装着されます。

レンズは、ボデー前面右下方のレンズ・ロック・ボタン (B1) を右下に引きながら、被写界深度目もり環 (R2) 上の二つの凸起に指先をあてて、鏡胴を反時計方向に 60 度回しますと、レンズ上部の赤△印 (被

被 写 界 深 度 表

マミヤ・セコール F 3.5, 9 cm

(錯乱円 10.1/1,000 センチ)

距離 絞り	∞	10	5	3	2.5	2	1.7	1.5	1.3	1.2	1.1	1(m)
3.5	23.02 ∞	7.03 17.42	4.15 6.30	2.68 3.41	2.28 2.77	1.86 2.16	1.60 1.81	1.42 1.58	1.24 1.36	1.15 1.25	1.06 1.14	0.97 1.03
4	20.15 ∞	6.75 19.50	4.05 6.55	2.64 3.47	2.25 2.81	1.84 2.19	1.59 1.83	1.41 1.60	1.24 1.37	1.15 1.26	1.06 1.15	0.97 1.04
5.6	14.42 ∞	5.97 31.56	3.77 7.48	2.52 3.71	2.17 2.96	1.79 2.28	1.55 1.89	1.38 1.64	1.21 1.40	1.13 1.28	1.04 1.17	0.95 1.05
8	10.12 ∞	5.10 468.87	3.41 9.53	2.36 4.13	2.05 3.22	1.71 2.42	1.49 1.98	1.34 1.71	1.18 1.45	1.10 1.32	1.02 1.20	0.93 1.08
11	7.39 ∞	4.32 ∞	3.05 14.53	2.19 4.83	1.92 3.62	1.62 2.63	1.42 2.12	1.29 1.81	1.14 1.52	1.07 1.38	1.00 1.24	0.91 1.11
16	5.11 ∞	3.44 ∞	2.60 124.20	1.96 6.72	1.74 4.56	1.49 3.08	1.33 2.39	1.21 2.00	1.08 1.64	1.02 1.48	0.95 1.32	0.88 1.17
22	3.74 ∞	2.78 ∞	2.21 ∞	1.74 12.83	1.57 6.67	1.37 3.88	1.23 2.83	1.13 2.29	1.02 1.83	0.96 1.62	0.90 1.43	0.84 1.26
32	2.60 ∞	2.11 ∞	1.77 ∞	1.46 ∞	1.35 31.36	1.20 6.97	1.10 4.14	1.02 3.04	0.93 2.25	0.88 1.94	0.83 1.67	0.78 1.43
45	1.88 ∞	1.62 ∞	1.42 ∞	1.22 ∞	1.14 ∞	1.04 ∞	0.97 10.66	0.91 5.40	0.84 3.28	0.80 2.64	0.76 2.14	0.72 1.74

被 写 界 深 度 表

マミヤ・セコール F 5.6, 15 cm

(錯乱円 10.1/1,000 センチ)

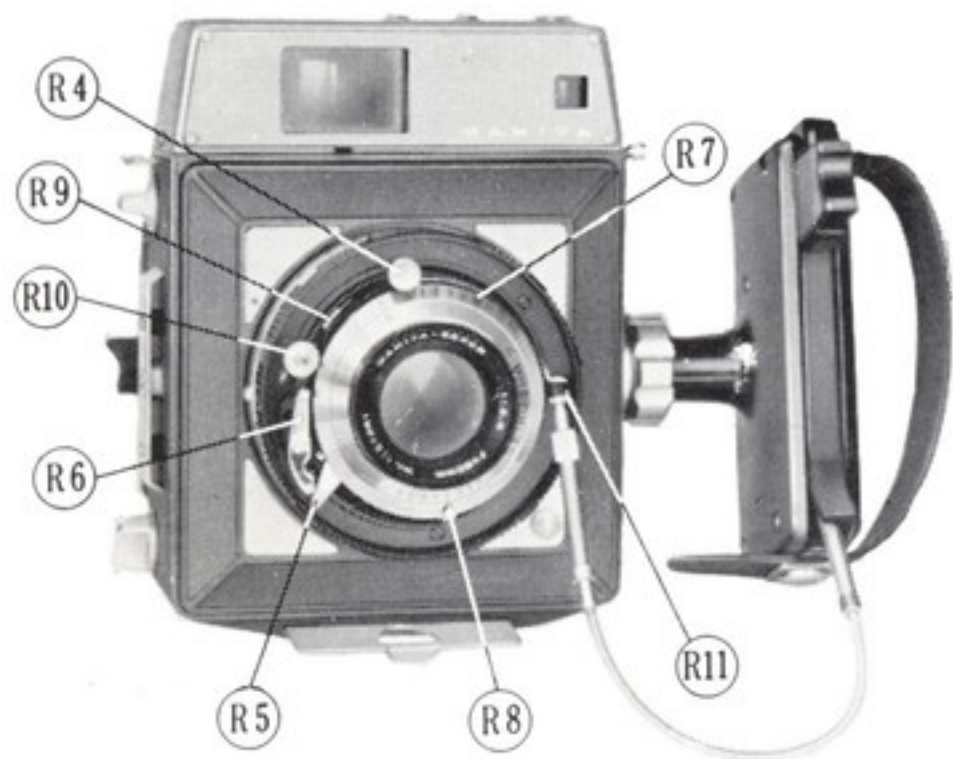
絞 り \ 距 離	∞	10	5	3	2.5	2(m)
5.6	39.92	8.06	4.49	2.81	2.38	1.92
	∞	13.18	5.65	3.21	2.64	2.08
8	27.98	7.45	4.30	2.75	2.33	1.89
	∞	15.27	5.99	3.31	2.70	2.12
11	20.38	6.80	4.08	2.66	2.27	1.86
	∞	19.07	6.47	3.44	2.79	2.17
16	14.05	5.95	3.77	2.53	2.18	1.80
	∞	32.64	7.48	3.69	2.94	2.26
22	10.25	5.17	3.46	2.40	2.08	1.73
	∞	231.32	9.21	4.04	3.15	2.37
32	7.08	4.25	3.04	2.20	1.93	1.64
	∞	∞	15.09	4.81	3.59	2.60
45	5.07	3.46	2.63	1.99	1.77	1.53
	∞	∞	93.90	6.42	4.38	2.96

被 写 界 深 度 表

マミヤ・セコール F 6.3, 6.5 cm

(錯乱円 10.1/1,000 センチ)

距離 絞り	∞	10	5	3	2.5	2	1.7	1.5	1.3	1.2	1.1	1(m)
6.3	6.71 ∞	4.06 ∞	2.91 18.61	2.11 5.24	1.86 3.85	1.57 2.76	1.39 2.21	1.25 1.87	1.11 1.56	1.04 1.42	0.97 1.28	0.89 1.14
8	5.29 ∞	3.50 ∞	2.62 72.39	1.96 6.58	1.74 4.52	1.49 3.08	1.32 2.40	1.20 2.01	1.07 1.66	1.01 1.49	0.94 1.34	0.87 1.19
11	3.87 ∞	2.83 ∞	2.23 ∞	1.74 12.06	1.56 6.54	1.36 3.88	1.22 2.85	1.12 2.31	1.01 1.85	0.95 1.64	0.89 1.45	0.83 1.28
16	2.68 ∞	2.14 ∞	1.79 ∞	1.46 ∞	1.34 26.36	1.19 6.88	1.09 4.16	1.01 3.08	0.92 2.30	0.87 1.99	0.82 1.71	0.77 1.47
22	1.96 ∞	1.67 ∞	1.45 ∞	1.23 ∞	1.15 ∞	1.04 125.05	0.96 9.49	0.90 5.21	0.83 3.28	0.79 2.66	0.75 2.18	0.71 1.79
32	1.37 ∞	1.23 ∞	1.11 ∞	0.99 ∞	0.93 ∞	0.86 ∞	0.81 ∞	0.77 ∞	0.72 11.45	0.69 6.19	0.66 4.01	0.63 2.82



写界深度目もりの中央) と、ボデー左上方の赤標識点 (B2) とが一致した位置で、はずすことができます。

レンズを取り付けるには、上記二つの標識点を合わせて押し込み、時計方向に 60 度回転すると、軽い抵抗を感じながら、逆転防止のクラッチが、かみ合い、固着します。

レンズを交換する場合は、グリップ (G1) から来ているケーブル・リリースを、差し込み口 (R11) からあらかじめ、はずしておいて下さい。

こうしてレンズを交換しますと、このままで直ちに、距離計と完全に連動いたします。

注意 レンズを取りはずしますと、ボデーの内部にピンが 2 本現われますが、これは距離計連動用及び沈胴警告用装置のピンで、いずれも重要な部品でありますから、これに手を加えるようなことは絶対に、さけて下さい。

シャッター (セイコーシャ S, ゼロ番)

露出時間系列 B, 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30,
1/60, 1/125, 1/250, 1/500 秒

絞り系列

標準 3.5, 4, 5.6, 8, 11, 16, 22, 32, 45

長焦点 5.6, 8, 11, 16, 22, 32, 45

広角 6.3, 8, 11, 16, 22, 32

フラッシュ MX シンクロ

シャッター外部にタイム・レバー (R6) 装置がついており、露出時間目もり (R7) をBにセットして、

このレバーを操作してシャッターを切れば、シャッターは開放状態になります。

またケーブル・リリースさし込み口 (R11) もついています。

ファインダー

逆ガリレオ式 (一眼式連動距離計と組合せてボデー上部に組み込み)、ピント・ガラス式 (ボデー後部のピント・ガラス・ホルダーに付着) 及びスポーツ・ファインダー (付属品取り付け座に適宜取り付け可能) の

画面サイズ 使用レンズ	6 × 9 判	6 × 7 判	6 × 6 判	6 × 4.5 判
標準	逆ガリレオ式ファインダー窓の視野のまま	標準用 6 × 7 判 補助マスク装着	標準用 6 × 6 判 補助マスク装着	標準用 6 × 4.5 判 補助マスク装着
長焦点	逆ガリレオ式ファインダー窓に組み込みのマスク使用	長焦点用 6 × 7 判 補助マスク装着	長焦点用 6 × 6 判 補助マスク装着	長焦点用 6 × 4.5 判 補助マスク装着
広角	専用ファインダーの視野	専用ファインダーの視野わく		

三種類あります。

逆ガリレオ式ファインダーの視野は、実画面の85%となっています。

画面サイズの変更によるファインダー視野の修正は、標準及び長焦点レンズの場合、逆ガリレオ式ファインダー窓に補助マスクをかぶせて行ない、広角は専用ファインダー(逆ガリレオ式、付属品取り付け座に、さし込んで使用)の視野わくを見て区別します。

標準及び長焦点の場合、パララックスはファインダーのぞき窓(B10)を斜め上下に動かして修正します。

ピント・ガラスは、ピント・ガラス・ホルダーに装着され、はね上がり式のうしろぶたがついています。ピントを合わせ終わりましたら、左手のレバー(P4)操作により、ピント・ガラスをレール面から後退させて、乾板用取りわくまたはフィルム・バック・ホルダーを側方から入れます。ピント・ガラスの視野は100%で、別に6×7、6×6に相当する標線が入っています。

距離計

二重像合致式の一瞬連動距離計で、基線長は60ミリ、倍率0.66、レンズ交換と同時に連動します。

連動範囲は、標準が1m~∞、長焦点が2m~∞、広角が1m~∞になっています。

標準レンズに限り、正規(∞)位置より10ミリ沈胴することができますが、普通撮影の場合、沈胴に気づかずに撮影すると困る(距離計が連動していない)ので、レンズが沈胴している場合には、ファインダー中央の二重像が、シマ模様によっておおわれる構造となっています。沈胴しているレンズを引き出すには、レンズを反時計方向に回してから抜き出し、さらに時計方向に若干回転させて固定します。沈胴させるには、この逆操作を行ないます。

焦点調節

各レンズとも直進ヘリコイド方式をとり、各レンズの繰出しの量は、標準9.92ミリ、長焦点13.28ミリ、

広角4.83ミリであります。

ピントは、連動距離計の二重像合致、目測による距離目もり(R3)の利用、またはピント・ガラスの直視によって合わせます。

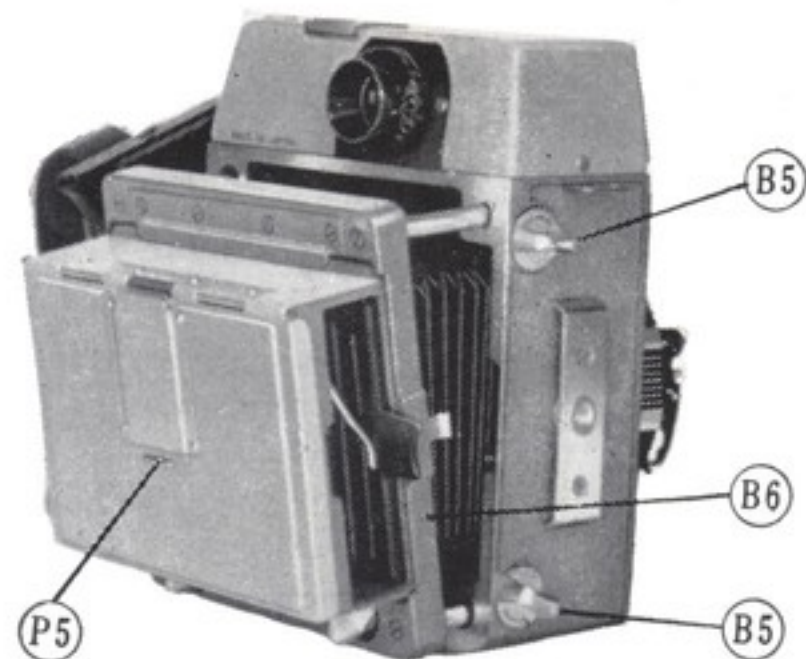
シャッター操作

セットは、セット・レバーで行ないます。リリースは、カメラのグリップについているケーブル・リリースの先端を、シャッター外周のケーブル・リリースさし込み口(R11)にねじ込み、左手人さし指で行なうのを原則としますが、シャッターのリリース・レバー(R5)を、直接、右手母指のわき腹で切ることもできます。

ピント合せの際は、シャッターの露出時間ダイヤルをBに合わせ、シャッターをセットして、外部のタイム・レバー(R6)のノブを、外側に引くと、シャッターを開放にしたままの状態にしておくことができます。

後部アオリと近接撮影

縦、横とも15度ずつアオリがききます。



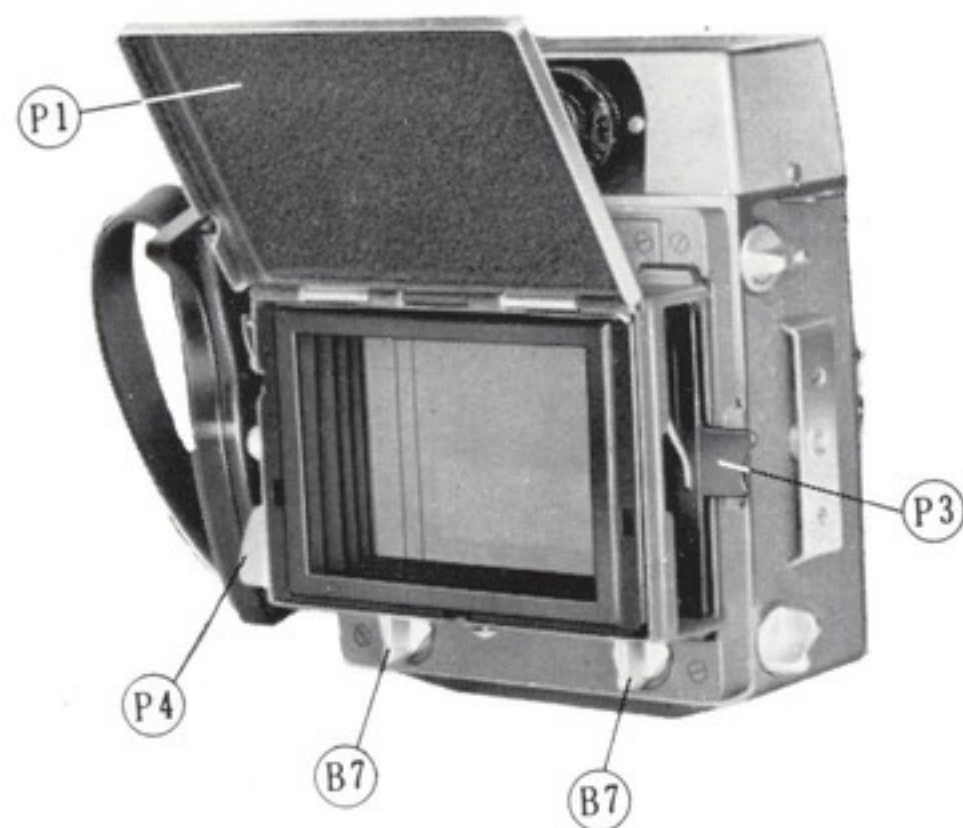
アオリ板を、すっかり引き出すと、後退量は約30ミリとなって、近接撮影に威力を発揮します。ただし、撮影の際は、露出倍数の変化に注意して下さい。

アオリ板の引き出し方

アオリを掛けるために、アオリ板を引き出すには、四か所の固定用ノブ(B5)をゆるめなければなりません。ノブの矢印は、固定方向を示しますから、逆方向に(カメラの外側から、うちに向って)回します。この場合、逆方向に止まるまで回す必要はなく、少し

補助レンズなしでの最近接撮影可能範囲 (レンズの距離目もり∞)

使用レンズ	要 目	縮写倍率	撮 影 範 囲 (ミ リ)	フィルム面から 被写体までの距離(ミリ)	露 出 倍 数
標 準	(90 ミリ, F3.5)	× 0.344	165 × 244	474	1.8
長 焦 点	(150 ミリ, F5.6)	× 0.207	275 × 406	1,056	1.5
広 角	(65 ミリ, F6.3)	× 0.477	119 × 176	292	2.2



ゆるめる程度で十分です。

次にアオリ板の引出し用の指掛けをつかんで、右または左の、いずれか一方から先に引き出して、所要のアオリを掛けましたら、矢印の方向にノブを静かに回して固定します。四か所のノブは、なるべく均等の力が加わるようにしめて下さい。

ピント・ガラス・ホルダーの操作

ピント・ガラス・ホルダーはアオリ板に、上側の止め板と下側2か所のノブ (B7) 及びクリックによって固定されます。

カメラの本体から、ホルダーを、はずすには、2か所のノブの切り欠きを、アオリ板の水平線と平行にそろえ、ホルダーの下部を持ち上げます。取り付けるには、アオリ板のノブを、そろえてから、ホルダーの上端をアオリ板の上側の止め板の下に、さし込み、下部のクリック部を一気に押し込みます。次に2か所のノブを90度回転して固定いたします。

ロール・フィルム・ホルダーの着脱も同様です。

ピント・ガラス・ホルダーのうしろぶたを、あけるには、止めボタン(P2)を矢印の方向に、ずらせます。



閉める場合は、うしろぶたを押すだけでよいのです。なお、うしろぶたについている開閉角度調節金具(P5)をすっかり引き出しておくと、うしろぶたが180度にあきます。

乾板用取りわくまたはフィルム・パック・ホルダーをピント・ガラス・ホルダーに入れるには、ホルダー左側のピント・ガラス排除レバー(P4)を押しつけて、ピント・ガラスを、ゆるめます。取りわく(パック・ホルダー)を入れ終わりましたら、レバーを放します。

カメラのグリップ

カメラの左側面(構えて)には、グリップが着脱できます。装着は、ロック・リング(B9)とネジの組合せによります。

三脚にすえて、縦位置撮影を行なうときは、グリップをはずし、三脚アダプターを装着してから、取りつけます。

グリップの中をケーブル・リリースが通っていて、

左手の人さし指で押します。ケーブル・リリースの先端は、シャッター外周のさし込み口 (R11) にねじ込みますが、必要のないときは、つり金具の一端にある受け口 (B16) に、はめ込んでおくこともできます。

発光器の取付け

発光器は、カメラの右側面 (構えて) の取付け座金 (B12) に、取り付け金具を使って取り付けます。

安定板

カメラ底部に取り付けられた、ちょうつがい付の安定板 (B8) を、指先で前方にセットしますと、カメラの転倒防止に役立ちます。

付属品取付け座

JIS規格のさし込み式金具 (B11) が、上部カバーに設けてあります。

三脚ねじ

カメラ底部 (B14) 及び発光器取付け部 (ボデーを構えて右側) (B13) の2か所に、JIS規格 1/4" の

ものが設けてあります。

大きさと重量

16 (縦) × 18.5 (横, グリップ付) × 14 (奥行き, 標準レンズ∞位置, ピント・ガラス・ホルダー 後端まで) センチ, 約 1.86 キロ

付属品

レンズ・フード (標準及び長焦点用の2種類)

各種フィルター (標準・長焦点用と広角用の2種類)

ロール・フィルム・ホルダー

乾板用取りわく

フィルム・パック・ホルダー

専用発光器

発光器取付け金具

スポーツ・ファインダー (6×9 及び 6×7 判用の2種類)

接写用中間リング

専用バッグ

三脚アダプター

取りわく及びロール・ホルダーの扱い方

乾板用取りわく

止め金 (1) を、すっかり引き出してから、取っ手 (2) に指先をかけて、ひっぱると、ふたがあきます。

乾板の膜面を、引きぶた (3) がある側にして、くぼみに入れ、ふたをしてから、止め金 (1) を、もどおりに押し込みます。

乾板と同じサイズ (大名刺判) のカット・フィルムを使うときは、フィルムのうしろに、不用の乾板 (ま

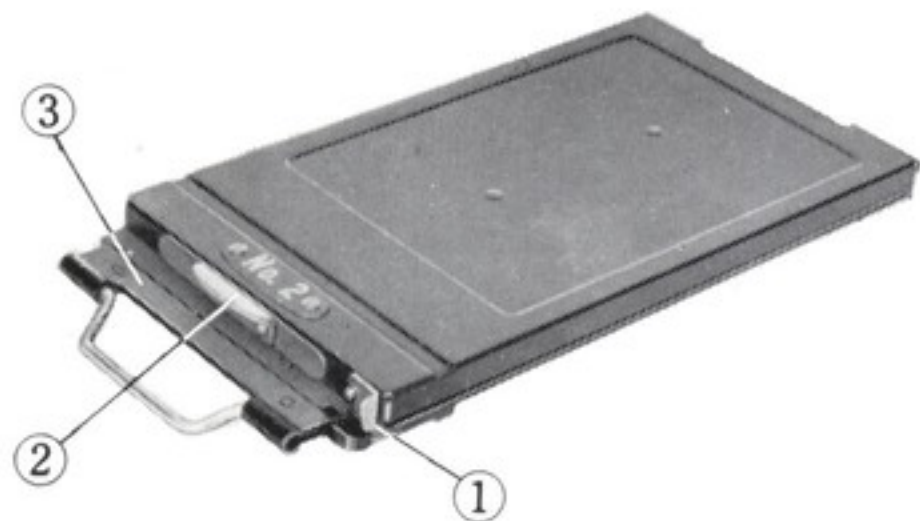
たはガラス板) を入れてから、ふたをしめて下さい。

カビネのカット・フィルムを、四等分したものを使うときは、四等分フィルムを、フィルム受けに納めてから、これごと取りわくのくぼみに入れます。

カビネのカット・フィルムを四等分するには、マミヤ・カッターを、お使い下さると能率的です。

フィルム・パック・ホルダー

2か所の開閉ボタン (1) を同時に押したまま、ふた



を持ちあげますと、あけることができます。

フィルム・パックを、金属ケースの部分を持って、ケースごとホルダーに納めます。この際、紙タップが開閉ボタン側から、そとへ出るようにいたします。なおフィルムについている使用書を、ご参照下さい。

ロール・フィルム・ホルダー

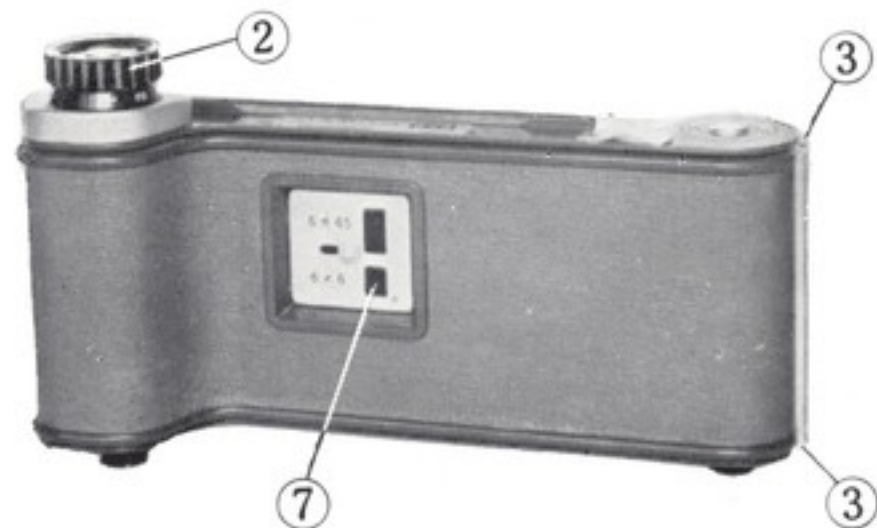
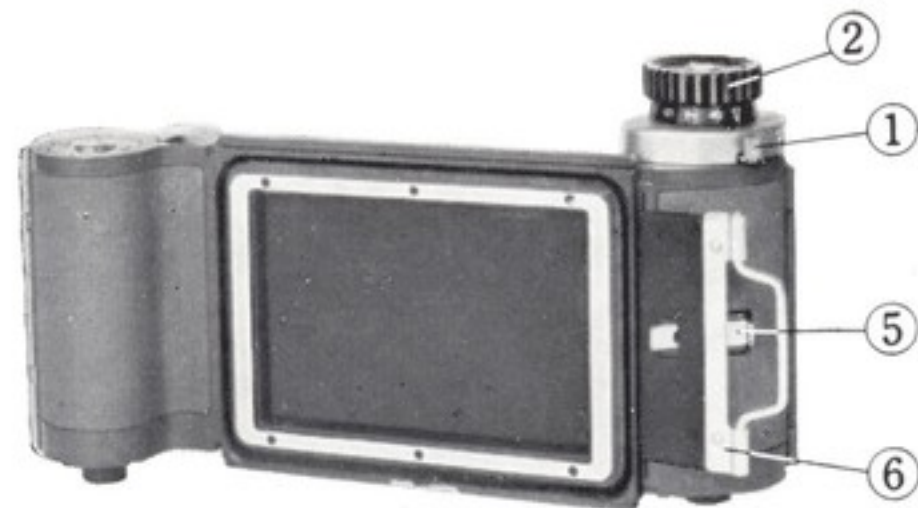
このホルダーには、6×9判(8枚どり)用と6×7判(10枚どり)用の二種類あって、いずれも6×6判及び6×4.5判どりができるようになっています。

主サイズのフィルム巻取りは、自動巻止ですが、6×6判と6×4.5判は、裏窓式です。

6×9判または6×7判のとき

巻止解除レバー(1)を使って、フィルム巻取ノブ(2)が自由に回転できる(フィルム・カウンターが△を指している)ようにしてから、裏ぶた止め金(3)を、上下とも引き出して、裏ぶたをあけます。

フィルムを入れ、巻取スプールに取り付けましたら、



フィルムにたるみがないように、指で軽く押えながらスプールに片寄らずに巻き込まれるように注意しつつ、ノブ(2)を巻いてゆき、フィルムの裏紙上のスタート・マークとホルダーのマーク(4)を一致させて

から、裏ぶたをしめます。

次に巻止解除レバー (1) を一度動かしてから、巻取ノブを止まるまで巻くと、フィルムの1枚目が、ちょうどよい位置にきます。

そこで、カメラに取り付け、引きぶたを抜いて撮影にとりかかります。

以下順次、撮影ごとに巻止解除レバー (1) を動かし

て、巻取ノブを止まるまで巻き、撮影ずみのフィルムを巻き取ります。

フィルムを入れたホルダーを、カメラに取り付けてないときは、引きぶた安全装置 (5) をかけて、引きぶた (6) が不用意に引き出せないようにしておきます。

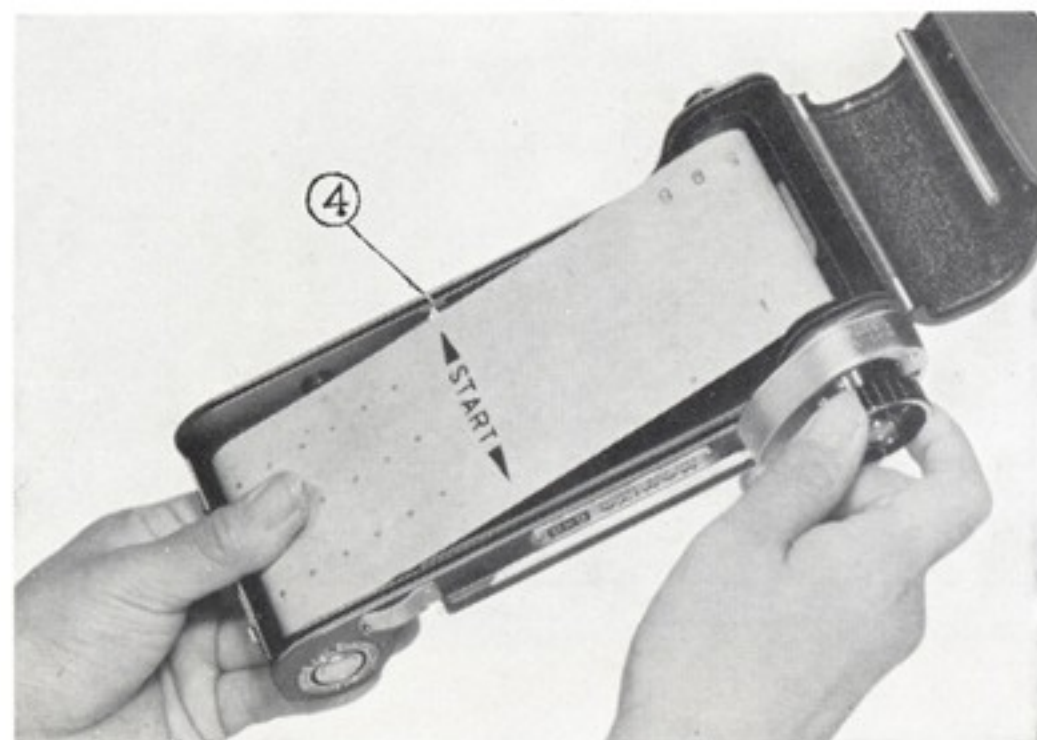
6×6判または6×4.5判のとき

巻取ノブが自由に回転できる位置で、フィルムを入れます。裏ぶたをしめましたら、赤窓 (7) をあけて、巻取ノブ (2) を巻いてゆき、赤窓にフィルムの裏紙の番号 1 を出します。

カメラに取り付ける前に、使用する画面サイズに合わせて 6×6判用または 6×4.5判用の画面わくを、忘れずに画面部 (ホルダー外側) にはめ込みます。

以下、撮影ごとに赤窓を見ながら、巻取ノブを巻いて、フィルムを巻き取ります。

なお、標準レンズで 6×9判どりをする以外は、ファインダー窓 (B3) の視野を修正する必要があります。





マミヤ光機株式会社

(株) マミヤカメラサービス

(株) マミヤカメラサービス

東京：東京都文京区大塚3丁目3番1号	新茗溪ビル
札幌：札幌市南一条西3丁目8番地	札石ビル
名古屋：名古屋市中区新栄町3丁目33番地	丸越ビル
大阪：大阪市西区南堀江通り1丁目30番地	西谷ビル
福岡：福岡市奈良屋町1番20号	奈良屋ビル